

「校長たより」にアクセスいただいた皆様

「校長たより」にアクセスしていただき、ありがとうございます。今回は、大きく4つについて掲載いたしました。

①きらっと光る子どもたちの生の声

○高等部入試に向かう中3の生徒たち ~11回の面接練習の成果はいかに~

○中学部進学に備える小6の子どもたち ~1/31(金)1日授業体験から~

②キラッと輝くエピソード

○校長室清掃の担当が変わります ~一週間の引継ぎ指導~

③本校の教育活動

(1) 授業改善

○タブレット端末を活用した学習① ~小学部3組 少人数の作文指導から~

○タブレット端末を活用した学習② ~中学部1年 一人での調べ学習から~

○どの運動も体験できる授業づくり ~小学部の体育「マット運動」から~

○学びを生活に生かす ~中学部1,2年 家庭生活の授業から~

(2) 認知度改善

○同世代間交流を終えて

④お耳を拝借

○修学旅行実施の難しさ ○絵本の紹介

お読みいただき、本校の教育活動にご理解いただくとともに、ご指導ご助言いただきますようよろしくお願い申し上げます。

校長 上松 武



令和7年2月4日

チームふれあい 27人の先生方へ

「なかよく たのしく たくましく」生きる

子どもの育成を目指して② -0204 職員会議資料-

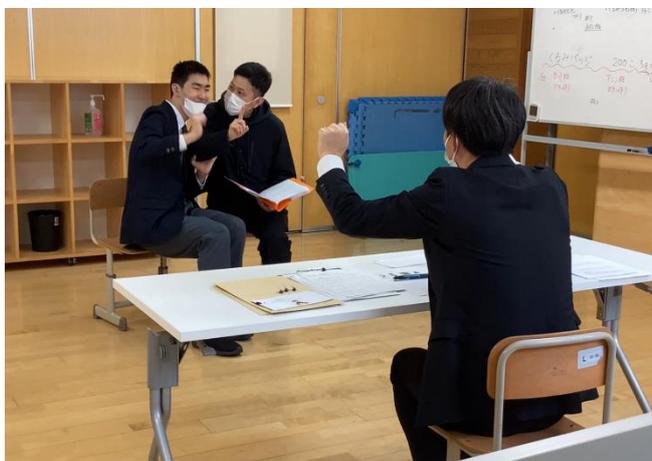
~自分のできることで、まわりの人を笑顔にしよう!幸せにしよう!~



上松 武

1 きらっと光る子どもたちの生の声

○高等部入試に向かう中3の生徒たち ~11回の面接練習の成果はいかに~



- ・1月31日(金)、雪が激しく降りしきる中、高等部入学選考が実施されました。
- ・中学部3年生は、3学期が始まると同時に、高等部入試に向けた面接の学習が始まりました。
- ・いわゆる「過去問」を参考に、自分で回答を考えて作成し、面接室を想定した面接練習を繰り返し行ってきました。
- ・後半の面接練習では教頭先生と私が面接官役となり、最後の仕上げを一緒にさせてもらいました。

らいました。

- ・面接練習を通して感じたことは、「努力は裏切らない」。回を重ねるにつれて、どの生徒も受け答えが上手くなりました。質問にさっと答えられるようになりました。一生



懸命な姿が印象的でした。

- ・30日（木）に生徒に贈った激励の言葉は
「いっしょうけんめいは カッコいい！」
「これまでのがんばりに じしんをもって！」
- ・入試当日、どの生徒も学習の成果を発揮できたでしょうか?!

○中学部進学に備える小6の子どもたち ～



1 / 31（金）1日授業体験から～

- ・小学部の6年生は、先日午前中だけ中学部の授業体験を行い、今日は給食や昼休み、そして5校時までの授業を中学部で受けました。
- ・参観した限り、小6の子どもたちはいつもと変わらない様子に見えました。やはり、普段からの小学部と中学部の交流活動が自然に行われているからなのでしょう。
- ・帰り際に感想を聞いてみると、「ドキドキした。でも、楽しかった。体育のダンスが上手にできた」と笑顔で教えてくれました。

中学生も一緒に学習できて楽しかったようです。後輩ができることは、成長の一つの糧になると思います。この時期の授業体験が、小学部の子どもたちはもちろん、中学部の生徒にとっても成長するチャンスととらえて、一緒に学習を進めてほしいと思います。

- ・さらには、年度の途中でも小学部の子どもたちが中学部の授業を体験することで知識技能の広がりや深まりが期待できます。中学部の生徒は責任をもって小学部の子どもたちの指導に当たるようになると思います。
- ・このような普段からの「つながり」こそ、大切にしていきたいものです。

2 キラッと輝くエピソード

○校長室清掃の担当が変わります ～ 一週間の引継ぎ指導 ～

- ・中3の生徒が校長室を掃除してくれていますが、今週から次期掃除担当の生徒と一緒にやってきて、掃除の仕方を指導していました。
- ・週の前半は付きっきりで教え、後半は少し離れて見守る方法で引継ぎの指導をしていました。
- ・中学部では、職業基礎の時間をはじめ、校長室掃除のように先輩が後輩へ「仕事」を教える光景が見られます。
- ・この「先輩から後輩へ伝える」ことを大事にした教育活動を年度末までやっていきましょう。「ちょっとがんばって、一つ上のステージに上がってみる」ことも大事にして、

子どもたちの成長しようとする力を引き出していきましょう。



3 本校の教育活動

(1) 授業改善

○タブレット端末を活用した学習①

～小学部3組 少人数での作文指導から～

- ・個別学習の時間、「楽しかったこと」の写真を見ながら、作文をタブレットで作成していました。
- ・タブレットの画面にあるように、クラゲのようなソフトを使って、左の円から順に「いつ」「どこで」「だれと」「何をして」「どうだった」と入力していきます。
- ・書くことが細分化されていて、かつ順序よく書き進めていけるため、子どもたちにとっては考えやすく書きやすいと思います。
- ・いろいろな「〇〇にくさ」を抱えている本校の子どもたちにとって、「〇〇にくさ」を解消できるツールをたくさん発見して試してみて、「これがあればできる」という自分の強味にしていってほしいと思います。



○タブレット端末を活用した学習② ～中学部1年 一人での調べ学習から～

- ・中学部1年生が作成した校長室入口の折り紙飾りを先月号で紹介しました。
- ・個別学習の時間、教室をのぞいてみると、タブレットの動画を見ながら何やら「鬼」らしいものを折り紙で折っていました。
- ・どう折ったらいいか分からなくなった時には、前の画像に戻して確認するなど、巧みに操作しながら正確に折ろうとしていました。
- ・動画は何度も繰り返し見ることができ、前に戻って確認することも簡単にできます。休日やちょっとした時間の余暇として、学校以外の場面で活用できるな～と思って期待しています。
- ・そして、2月はどんな飾りが届くのか、今から楽しみです。



○どの運動も体験できる授業づくり ～小学部の体育「マット運動」から～

- ・小学部全体の体育では、マット運動に取り組んでいます。

- ・写真のように3つのマットが敷かれていますが、奥の方から「三角マットがプラスされている」「二つに折られたマットがあり少し高くなっている」「真ん中に溝がある」というように工夫されています。

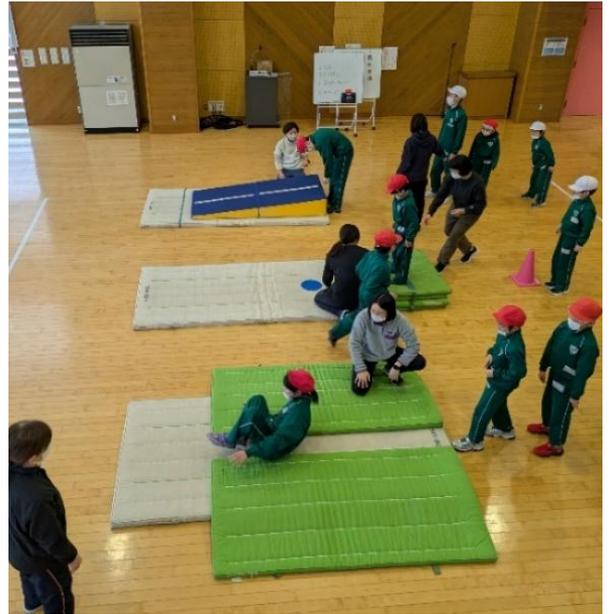
- ・自分の力だけでは難しい動きを、このように用具を工夫することによって前転しやすくさせています。

- ・そして、どのマットでも前転が体験できるように授業は進められていました。
- ・この後の授業展開はどうなるのだろうと楽しみしながら、また参観しようと思っています。

- ・こんふうになるのかな…

「一人一人がどのマットであれば前転しやすいのかを考え、自分でマットを決めて学習に取り組んでいく」

「タブレットで動画を撮影しながら、前転しやすいマットを選んで学習する」



○学びを生活に生かす ～中学部1,2年 家庭生活の授業から～

- ・中学部1,2年生は、「家庭生活」の時間で快適に生活するための「整理整頓の仕方」を学習しています。
- ・教室で片付けや掃除の仕方を学んだ後、自立活動室を自分の部屋に見立て、学習した知識技能を実際場面で生かすように授業を展開していました（下の写真）。
- ・中学部の「家庭生活」の学習は、知識技能の習得⇒実際の生活場面での活用という大きな授業づくりの視点が必要だと思っています。それを確実に実行しています。
- ・さらに、実際の生活場面で活用している時に、「今のやり方でよかったか？ 他のやり方はないか？」などと考えさせる状況を作ることによって、学びが深まると思います。



「実際の生活場面での活用の評価」を取り入れた授業改善を進めてみませんか？

(2) 認知度改善

○同世代間交流を終えて

- ・今年度始めた「同世代間交流」のまとめと、来年度の実施の仕方について検討しています。
- ・実施した5校にアンケート調査を依頼したところ、いずれの学校からも子どもたちの心の変化が見られ、友達との関わり

方への変化が表れてきているという回答がありました。

- ・各校の回答から、同世代間交流の意味を次のように考えています。来年度も継続していく予定です。

「同世代間交流を通して、子どもたちは「〇〇さんとどうしたら上手く関われるだろうか」と考えるようになります。このように「自分ごと」として考えることが今と将来の不幸を生まないことになります。正しく知り、憶測でものを言わないようになります。十日町小と本校のように、日常的な関わりが可能となる環境がどこの

学校にも備わっていることが望ましいと思います。しかし、年に1～2回の交流活動でも、正しく知る機会があり、「自分ごと」として考え実行する機会があるだけで、心無い発言で傷つく人がなくなり、傷つける人がいなくなっていくという確かな手応えを感じました。」

4 お耳を拝借!!

(1) 修学旅行実施の難しさ

- ・特別支援学校の修学旅行を請け負ってくださる旅行会社がここ最近減ってきている現状があります。県内の特別支援学校はもとより、全国的な傾向のようです。本校も、小・中学部ともに見積もりをお願いした旅行会社から断られました。
- ・朝日新聞社が出版している「AERA」(2025.1.20 発行)に、『支援学校の旅行がピンチ』と題した記事が掲載されました。この記事を読んでもみると、旅行会社の事情にも納得できます。「そもそも支援学校の修学旅行の予算設定が現状に合っていない。少子化の問題と経済動向を見据えた料金設定に改めていただかないとやれるものもやれない」「支援学校のように人数が少なく特別な補助や対応が必要になってくると、果たして予算内でできるだろうか」など、旅行会社の厳しい現実が書かれています。
- ・一方で、特別支援学校の修学旅行について研究している記事も載っています。岐阜聖徳学園大学特別支援教育専修のホームページに掲載されている『特別支援学校の修学旅行を計画する際のポイント』は参考になりそうです。
- ・請け負っていただける旅行会社から本当のところをお聞きして、支援学校として改善できることがあるのか検討しなくてはいけないと考えています。

(2) 絵本の紹介

- ・節分に関する絵本です。タイトルの紹介だけですみません。よかったら、どうぞ!
 - 『おにはうち!』中川ひろたか・文 村上康成・絵 童心社
 - 『だいくとおにろく』松居 直 再話 赤羽末吉 画 福音館書店
 - 『かえるをのんだととさん』日野十成 再話 斎藤 隆夫 絵 福音館書店